

**製品名: WAVE1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19865**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	WASF1
別名	WASF1; KIAA0269; SCAR1; WAVE1; Wiskott-Aldrich syndrome protein family member 1; WASP family protein member 1; Protein WAVE-1; Verprolin homology domain-containing protein 1
遺伝子 ID	8936.0
SwissProt ID	Q92558
免疫原	抗血清はヒト WAVE1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

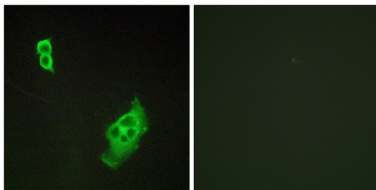
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ウィスコット・アルドリッチ症候群タンパク質 (WASP) ファミリーに属し、Rhoファミリーの低分子 GTPase である Rac の下流において、膜の波立ちに必要なアクチン細胞骨格の制御において重要な役割を果たします。このタンパク質は、in vitro においてアクチン核形成コア Arp2/3 複合体と会合し、アクチンの重合を促進することが示されています。ウィスコット・アルドリッチ症候群は免疫系の疾患であり、アクチン細胞骨格の制御における欠陥に起因すると考えられます。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: C 末端領域を介して Arp2/3 複合体に、またベルプロリン相同性 (VPH) ドメインを介してアクチンに結合します。機能: チロシンキナーゼ受容体および低分子 GTPase からアクチン細胞骨格へのシグナル伝達に関与する下流エフェクター分子です。類似性: SCAR/WAVE ファミリーに属します。類似性: 1 つの WH2 ドメインを含みます。細胞内局在: 細胞質内にドット状のパターンを形成します。Rac 制御性の膜波状領域に集中しています。サブユニット: ABI2、CYFIP2、C3orf10/HSPC300、NCKAP1、および WASF1/WAVE1 からなる WAVE1 複合体の構成要素です。CYFIP2 は活性化 RAC1 に結合し、複合体を解離させて活性化 WASF1 を放出します。この複合体は NCK1 によっても活性化される (類似性による)。アクチンおよび Arp2/3 複合体に結合し、BAIAP2 と相互作用する。組織特異性: 脳で高発現。精巣、卵巣、結腸、腎臓、脾臓、胸腺、小腸、末梢血で低発現。

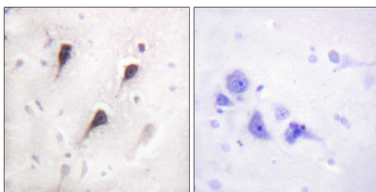
## 研究分野

Adherens\_Junction;Fc γ R を介した貪食;アクチンと細胞骨格を調節します。

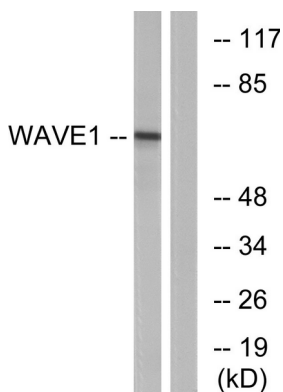
## 画像データ



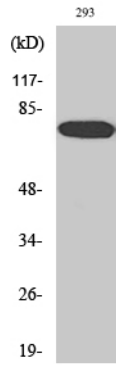
WAVE1 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



WAVE1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した 293 細胞ライセートの WAVE1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



WAVE1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。